

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：横浜市天王町保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：佐藤 尚子	定員（利用人数）：101名	
所在地：〒240-0003 横浜市保土ヶ谷区天王町2-42-29		
TEL：045-331-1811	ホームページ： https://www.wam.go.jp/kodomo/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1978年06月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市		
職員数	常勤職員：27名	非常勤職員：23名
専門職員	（専門職の名称）：名	幼稚園教員：15名
	保育士：34名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0歳児室	設備：厨房
	居室：1歳児室	設備：事務室
	居室：2歳児室	設備：育児支援ルーム
	居室：3歳児室	設備：トイシ
	居室：4歳児室	設備：園庭
	居室：5歳児室	

③理念・基本方針

<理念>

すべての子どもたちが、自分を「かけがえのない存在」と感じ自信を持って生きていられるように、幸せに生きる権利を保障していかなければと考えます。

<保育方針>

1. 子どもが本来持っている「育つ力」を十分に発揮し、自ら人生を主体的に生きていられるよう、環境を整え、適切な援助をしていく。
2. 子どもが「現在を最もよく生き、望ましい未来を創り出す力の基礎を培う」ことができるように援助をしていく。

<園目標>

こころとからだ すこやかにみんなでのしくすごそう

④施設・事業所の特徴的な取組

<保育姿勢>

1. 楽しい毎日を過ごせるように見守り、健やかな育ちを大切にしていきます。

2. 様々な経験をする中で、自信をつけ意欲を育てていく環境を整えます。
3. 子ども一人ひとりの思いに寄り添い、共感し合いながら信頼関係を築いていきます。
4. 子どもの成長を保護者とともに喜び合います。
5. 子育てにかかわる人を応援し、保育園の機能を活用した育児支援を行います。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年04月01日（契約日） ～ 2023年01月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2018年度）

⑥総評

【横浜市天王町保育園の概要】

●横浜市天王町保育園（以下、本園という）は、昭和53年に開園し、44年の長い歴史を刻み、そして共に地域の方たちに親しみ育まれてきた保育園です。現在、0歳児から5歳児の子どもを預かる、定員101名の大規模保育園であり、乳幼児保育・障害児保育・延長保育を提供しています。本園は、相鉄線天王町駅から帷子橋を渡り帷子川沿いを5分程度、天王町団地（UR都市機構）の並びに位置し、商店街も多く、駅までの利便性の良さは利点です。本園は、広い園庭を有し、近くには天王町南公園や天王町公園、天王町二丁目公園等、自然が残る広い公園が点在し、この環境を生かして散歩や戸外遊びを多く取り入れ、伸び伸びと体を動かし、子どもたちの興味や関心を広げ、園目標である「こことからだ すこやかにみんなでのしくすこそう」に沿った保育を実践しています。

●本園は、保土ヶ谷区の育児支援センター園の1つとして、区内の民間保育園とも連携を図りながら本園のみならず、区内全域の保育の質の向上に取り組んでいます。また、地域の未就園児の保護者に対して保育に関わる情報提供・育児相談・育児講座・交流保育・園庭開放等を積極的に行う等、地域育児支援を推進しています。

●園舎は2階建ての作りで、広い園庭にはジャングルジム、滑り台等の固定遊具を設置し、砂場やプールも設備された保育園です。また、園庭内に畑が2ヶ所あり、年長と年中に分けて野菜等を栽培し、食育につなげています。さらに、外階段から上がる2階にも子どもが遊びこめる広さのテラスがあり、新型コロナウイルス禍（以下、コロナ禍）においても子ども同士が密になることなく、伸び伸びと体を動かして遊ぶことができる環境が整っています。

◇特長や今後期待される点

1. 【伝統のきめ細かい保育】

●本園は、横浜市の方針に沿い、未来への可能性を秘めたかけがいのない子どもたちが、周りの人たち全てに愛され、日々の生活や遊びの中で、心に響く多くの体験を積み重ね、人格形成の基礎を培う保育の実施に定評があります。本園の目標である「心とからだの健康」、「さまざまな人との関わり」、「心にひびく体験」、「子どもをはぐくむ環境」を通して、ゆるぎない保育を進めています。

2. 【ビオトープを通した自然体験】

●本園では、都市化や森林伐採等が進んでいる昨今において、自然と触れ合うことのできる機会が減少していることを鑑み、園庭に畑やビオトープを作り、子どもたちが自然とふれ合う機会を増やす取り組みを行っています。畑には季節の野菜や花々等を栽培し、収穫までを体験し、ビオトープではメダカやカエル等を飼育し、本来生息している環境に近い状態で生物の成長を観察できる環境を整え、子どもが自然と関わりながら興味や

関心を持てるようにしています。身近な自然は、子どもたちの「育ち」や「学び」に欠かすことのできない重要な「環境」の一部であり、自然を相手にした遊びの中で、子どもたちは豊かな感性を育てています。

3. 【食への興味や関心を高める食育への取り組み】

●本園では、子どもの年齢に応じて育てやすい野菜を選定し、年中児と年長児がそれぞれ園庭の畑や2階のテラスで野菜の栽培活動を行っています。自分たちが育てた野菜の収穫を体験し、野菜を身近に感じ、食育につなげています。また、毎朝、幼児クラスの子どもたちが給食で使用される食材を調理室に取りに行き、調理員から食材について説明を受け、各クラスに回覧する活動を行う等、「食」への関心につなげています。子どもたちは、食材を見て触れ、調理から食すまでの過程を経験し「食」を通して五感を育み、豊かな感情の成長へとつながっています。調理員は、iPadで調理から料理が完成するまでの過程を撮影し、プロジェクターを使用して映画会を開催し、子どもたちへ「食」への興味・関心を高め、同時に作ってくれた人や食材に対する感謝の心を育てています。

4. 【地域の保育資源ネットワーク事業の推進】

●横浜市は10年余りをかけて市立保育園の民間移管への移行を推進しています。民間移管により横浜市の負担軽減と民間資本の活用を図る計画と同時に、市立保育園が縮小され、残存する市立保育園の役割を大きく変え、センター園とし、これまでの保育業務と併せて余力を地域子育て支援の充実に充てています。大きくは、①地域の保育園等を利用しない親子に対する子育て支援事業の推進、②地域の全保育園とのネットワーク事業が挙げられます。①では、従来、各市立保育園が行っていた園庭開放、育児講座、交流保育を、専任の育児支援センター保育士が担当し、各園の保育士、時には民間保育園の力を借りながら本業として取り組むものです。②はネットワーク専任保育士を置き、地域内の民間保育園と連携をとりながら保育所職員全体の研修、障害児全体研修、分野別勉強会等、保育園間の交流を行うものですが、保土ヶ谷区のセンター園は2園であり、ネットワーク保育士も2名であり、尽力されていても限りがあります。区の保育園のネットワーク化を図り、ネットワーク保育士の下に中核園等の担当を組み込み、ダイナミックな展開を図っていかれることを期待いたします。

5. 【スピーディな予算化等に関する課題（建物の老朽化）】

●本園は、改組により保土ヶ谷区の傘下となったことで施設の修繕（但し、危険箇所）等、区の判断にて早急に対応されるようになりましたが、園舎老朽化による建て替えについては「誰が」、「いつ」着手されるのかは不透明です。評価項目【3】の経営課題では、年間の保育は見返せても園長としての経営課題は提起に留まり、計画に参加できない状況があります。組織観点から無理もありませんが、刻々と老朽化する建物等に関する優先順位や緊急予算化は必要と思われます。長期計画については、現場の園長が参画できるべきであり、体制改善が求められます。子どもの安全、良好な保育環境を確保するため、改修・改築に早期に着手すると共に適切な維持保全を図り、努めていかれることを望みます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 横浜市天王町保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取り組みの感想》

天王町保育園では、第三者評価を受けることを、日々の保育の振り返りができる良い機

会と捉え、全職員の共通理解と保育の質の向上を目指し、計画的に取り組んでまいりました。

保育やマニュアルの見直しは、職員全員が担当制で役割を持って行いました。職員同士、また主任や園長も一緒に話し合いを重ねる必要があり、それが質の高い保育への取組みにつながりました。この話し合いを重ねたことが風通しの良い職場作りにつながる等、充実した時間となりました。

そして、保護者の皆様のご協力の下、いただいたアンケートより満足度の高かったことは職員にとって大きな励みとなりました。また改善が必要なことは職員みんなで考え解決に努めてまいります。

今後も「子どもたちの最善の利益」を守りながら、日々の保育に取り組んでいきたいと思っております。

《評価後取り組んだ事として》

1. 保護者アンケートより改善点について検討し、できるところから改善しました。
2. 更なるICT化を進め、保護者の皆様への保育の可視化や情報伝達に努めています。
3. 第三者評価を含め、今年度の保育の取組みの振り返りを行っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり